

大竹市次世代育成支援行動計画

子育てをしてみたいまち おおたけ



平成17(2005)年3月
広島県 大竹市

第1章 計画の概要

1．計画策定の趣旨

わが国では、子どもの数が昭和48（1973）年の第2次ベビーブーム以降今日まで減少の一途をたどり、急速な少子化が進んでいます。

こうしたことから、平成15（2003）年7月、従来の少子化対策を一步進め、その充実と一層の促進を図ることを目的として「少子化社会対策基本法」「次世代育成支援対策推進法」が相次いで制定されるとともに、児童福祉法が改正され、国をあげて今後10年間の集中的な取り組みが推進されることとなりました。

このため、新たな「少子化社会対策基本法」「次世代育成支援対策推進法」並びに「男女共同参画社会基本法」の趣旨を踏まえ、市民の皆さんと一緒に、地域全体で子どもと子育てを支援していくことを基本に、「大竹市次世代育成支援行動計画」をここに策定するものです。

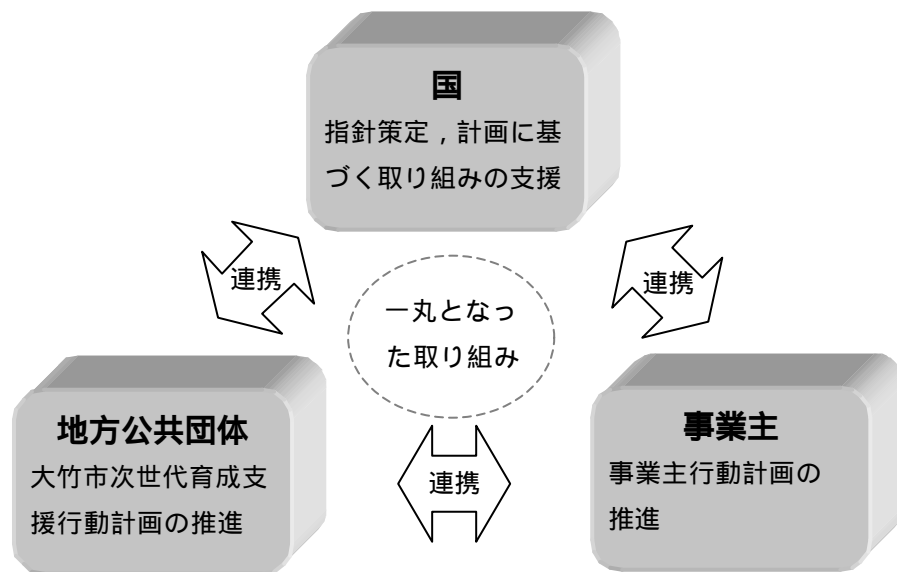
2．計画の位置づけ

この計画は、次世代育成支援対策推進法第8条第1項に基づき、すべての子育て家庭を対象として、市が今後進めていく子育て支援施策の方向性や目標を総合的に定めるものです。

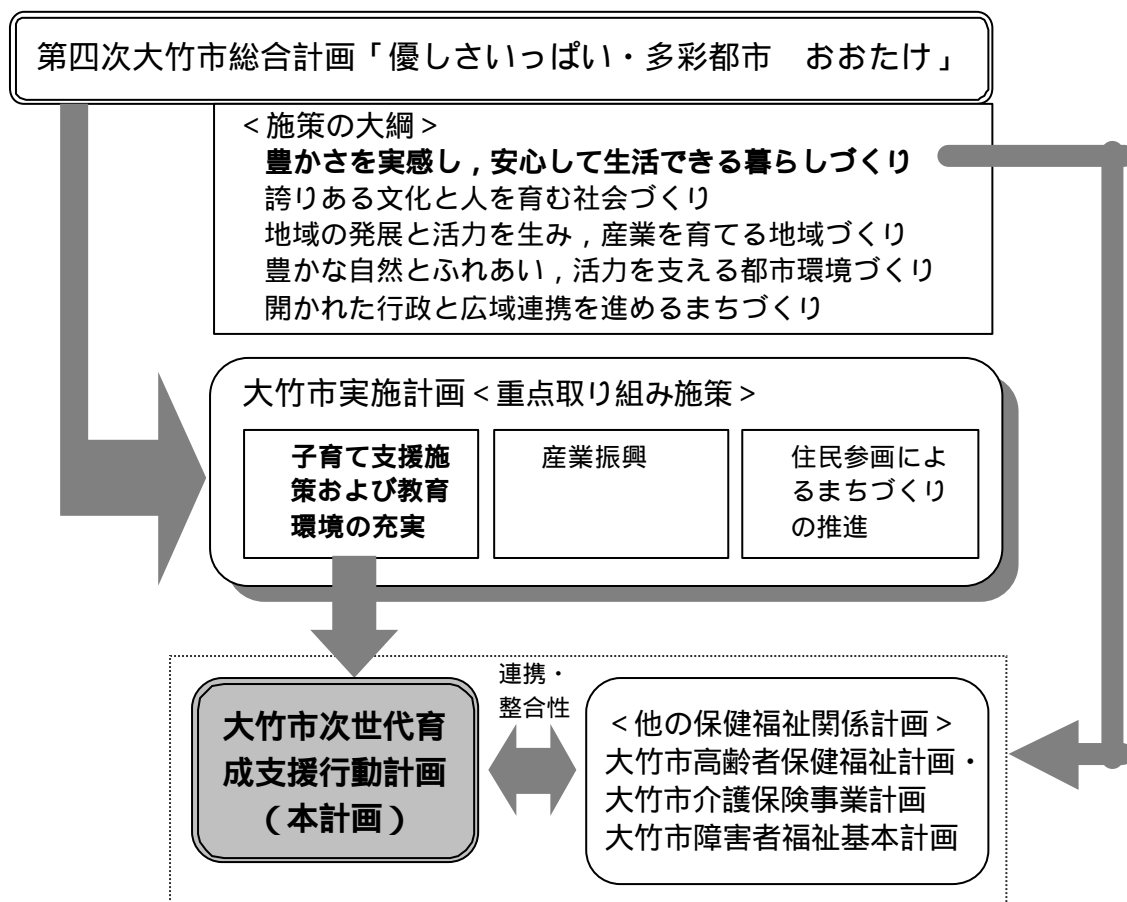
本計画における他の計画との関係については「第四次大竹市総合計画」をはじめとして、「大竹市高齢者保健福祉計画・大竹市介護保険事業計画」「大竹市障害者福祉基本計画」など、まちづくりに関する上位計画、関連計画との整合・連携を図るものとし、子育てに関する施策を総合的に推進します。

なお、次世代育成支援対策推進法で定められている事業主行動計画については、企業等の一般事業主および地方公共団体等の特定事業主による策定が必要とされており、本市も市として策定しました。このため、これら事業主行動計画と大竹市行動計画に必要な整合性を確保していくため、この計画の積極的な周知広報等に努め、一体的な取り組みによる次世代育成支援対策の推進を図ります。

【事業主行動計画等との連携図】



【市の関連計画との関係図】



3．計画期間

計画の期間および見直し予定

平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
策定 作業	前期計画（本計画期間）									
					見直し 作業	後期計画				

4．計画の達成状況の点検・評価

本計画を進めるにあたり，定期的に目標の達成状況等の点検・評価を行う必要があります。そのため，「市民み～ていんぐ」の委員の方々に引き続きモニターとして，市民による点検・評価をしていただくこととします。

さらに，庁内においても，関係各課が集まり，計画の進捗状況を定期的に点検・見直しを行っていきます。



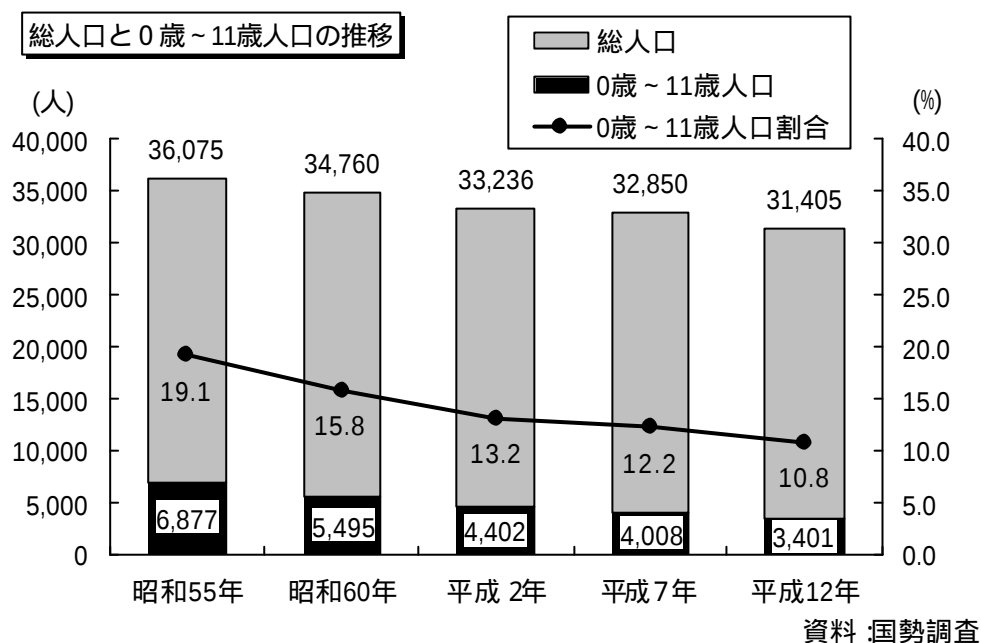
第2章 大竹市の子育ての現状と課題

1. 子どもを取り巻く状況

(1) 少子化の動向

人口の推移

大竹市の総人口は、昭和55（1980）年から年々減少しています。同時に、0歳～11歳人口も減少しており、平成12（2000）年の0歳～11歳人口割合は10.8%となっています。



世帯の動向

総人口が減少している反面、世帯数は増加しており、平均世帯人員も減少していることから、核家族化が進んでいることがわかります。また、世帯当たり子ども数は平成12（2000）年で0.48人に減少し、6歳未満、18歳未満の親族のいる世帯数・割合も大幅に減少しています。

世帯構造の推移

資料 国勢調査

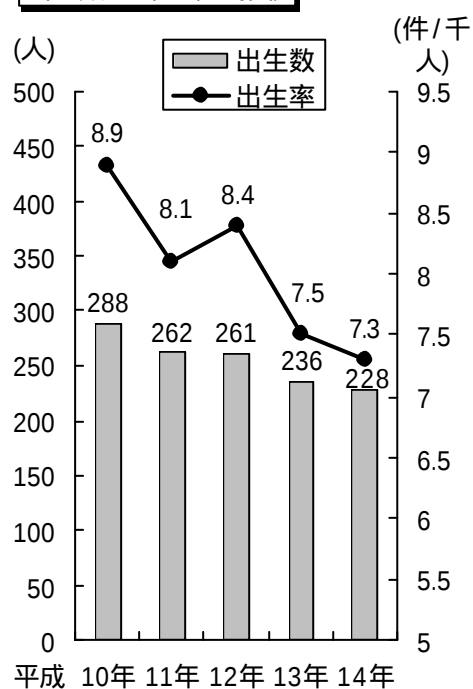
	昭和55年	昭和60年	平成 2年	平成 7年	平成12年
世帯数 (世帯)	10,925	10,978	10,900	11,360	11,485
世帯人員 (人)	35,725	34,470	32,809	32,262	30,780
平均世帯人員 (人)	3.27	3.14	3.01	2.84	2.68
世帯当たり子ども数 (人)	0.91	0.81	0.68	0.56	0.48
6歳未満の親族のいる世帯の数 (世帯)	2,304	1,727	1,488	1,371	1,184
割合	21.1%	15.7%	13.7%	12.1%	10.3%
18歳未満の親族のいる世帯の数 (世帯)	5,413	4,797	4,032	3,509	3,076
割合	49.6%	43.7%	37.0%	30.9%	26.8%

出生の動向

大竹市の出生の状況は、出生率が平成12(2000)年にいったん上昇したものの、平成13(2001)年以降は減少を続けています。平成14(2002)年の出生数は228人、出生率は7.3件/千人です。

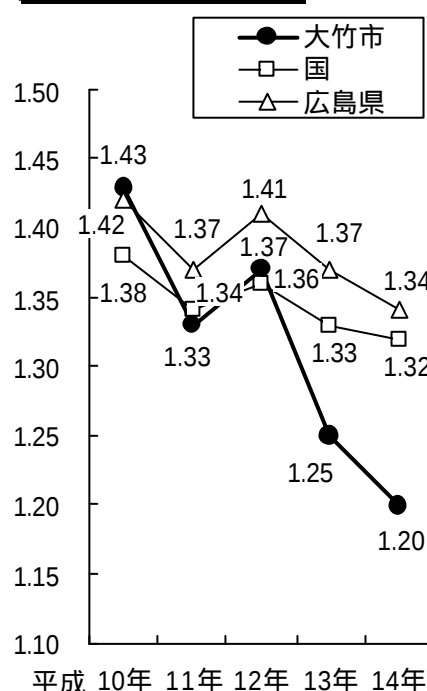
また、1人の女性が一生の間に生む子どもの数を表す合計特殊出生率は、平成12(2000)年までは国、広島県と近い値で推移していましたが、平成13(2001)年以降は国、広島県を下回る減少を続け、平成14(2002)年には1.20となっています。また、これは総人口の維持に必要といわれる2.08を大幅に下回っています。

出生数と出生率の推移



資料 :住民基本台帳、人口動態統計

合計特殊出生率の推移



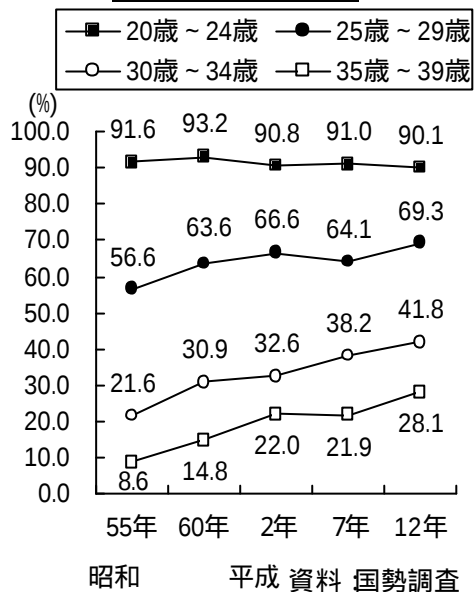
資料 :住民基本台帳、人口動態統計

合計特殊出生率 = 1人の女性が一生の間に生む平均の子ども数。2.08を下回ると、親世代よりも子世代の数が少なくなり、やがて総人口が減少することが見込まれる。

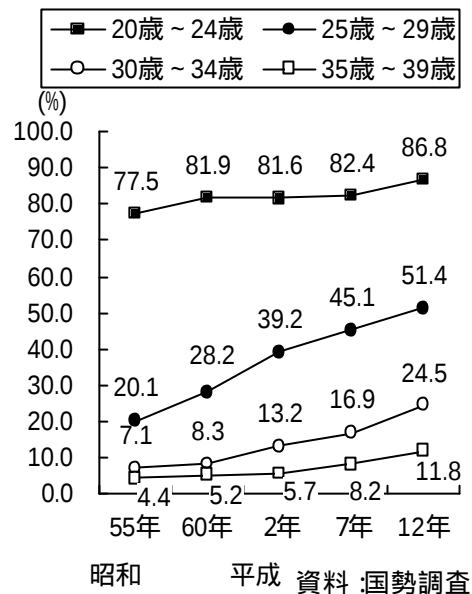
未婚の動向

男性の30歳以上，女性の25歳～35歳までの未婚率の伸びが大きいことが顕著にわかります。平成12年の未婚率を広島県平均と比較すると，男性の35歳～39歳の未婚率が，県平均よりも5ポイント程度高くなっています。

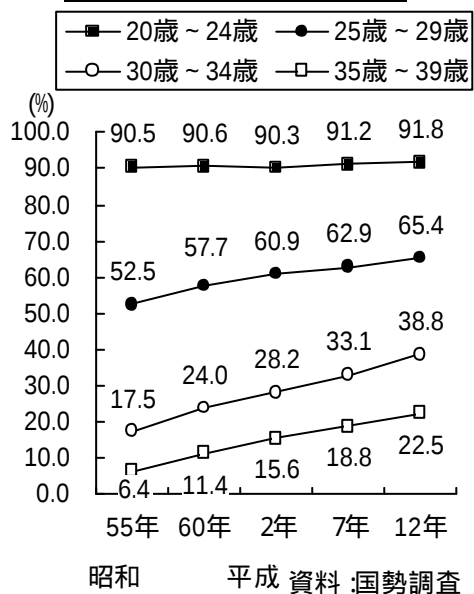
未婚率の推移 (男性)



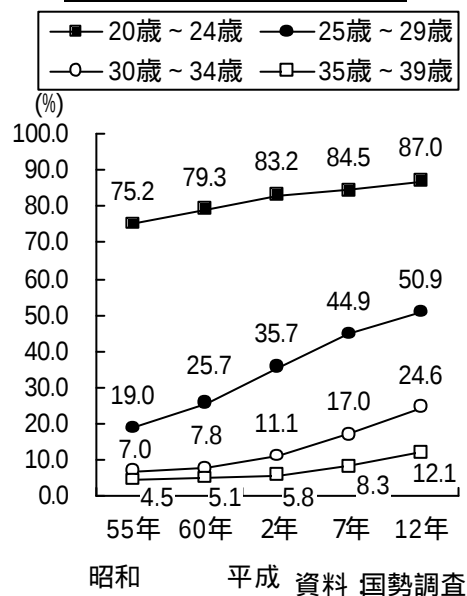
未婚率の推移 (女性)



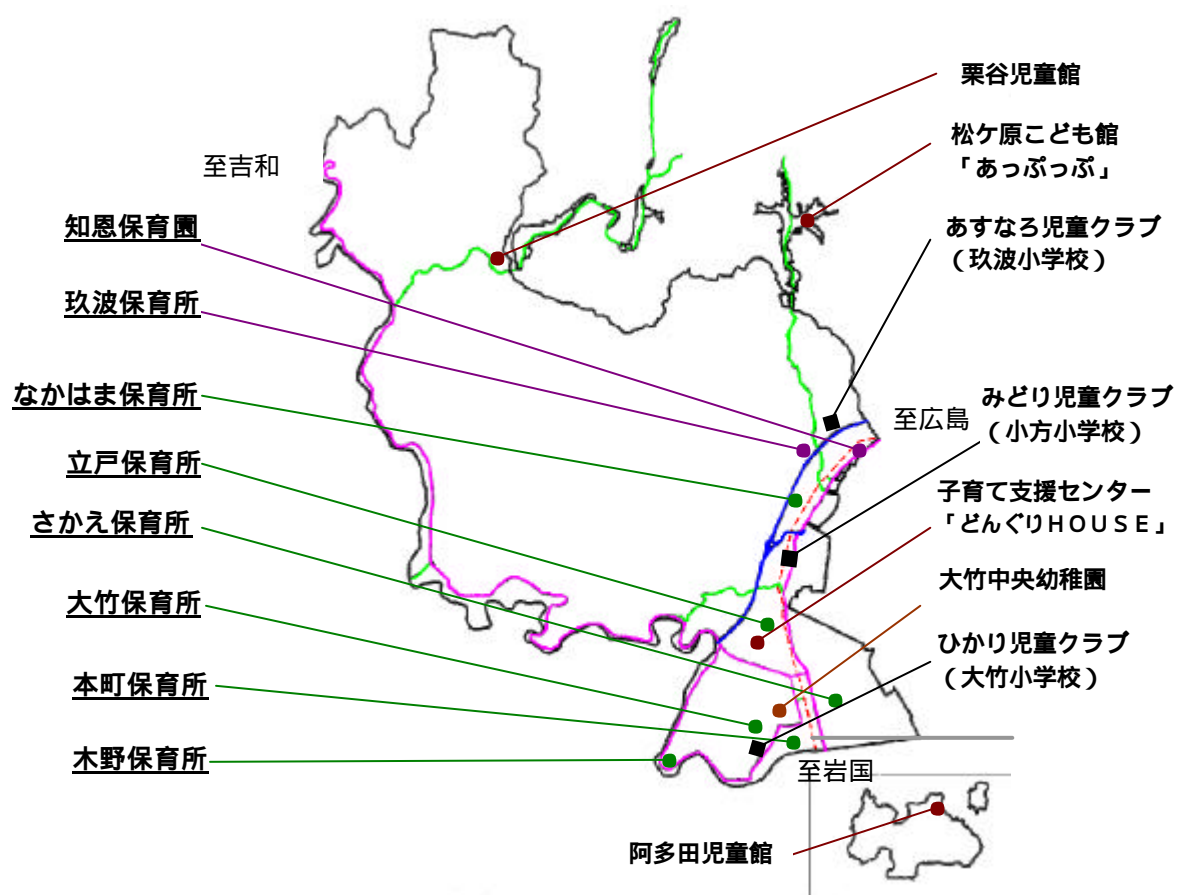
未婚率の推移 (男性) 県平均



未婚率の推移 (女性) 県平均

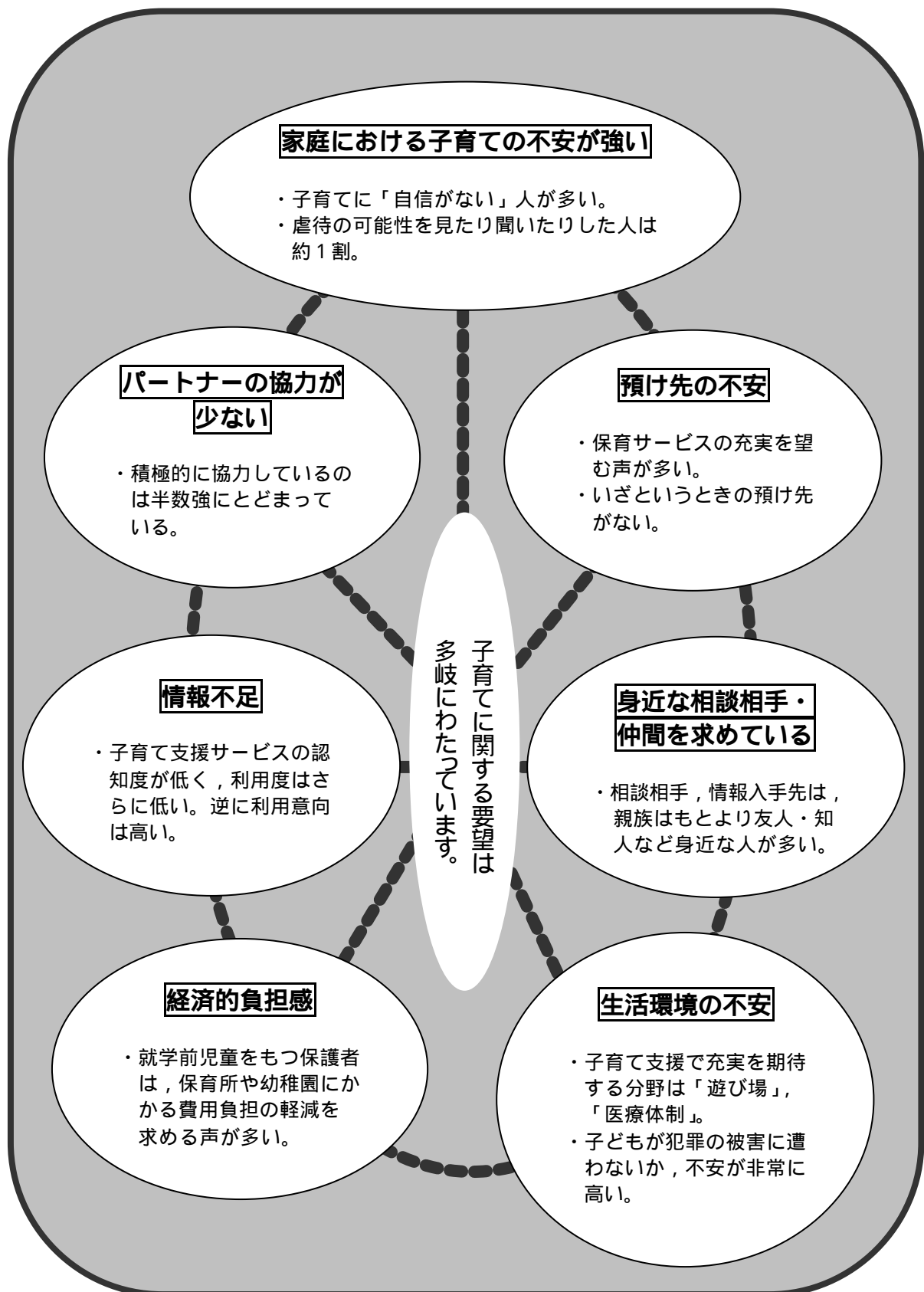


(2) 市内の子育て支援マップ



市内の保育所，幼稚園，児童館，放課後児童クラブ，子育て支援センター，つどいの広場を掲載。

2. 「次世代育成支援」に関するニーズ調査結果のまとめ



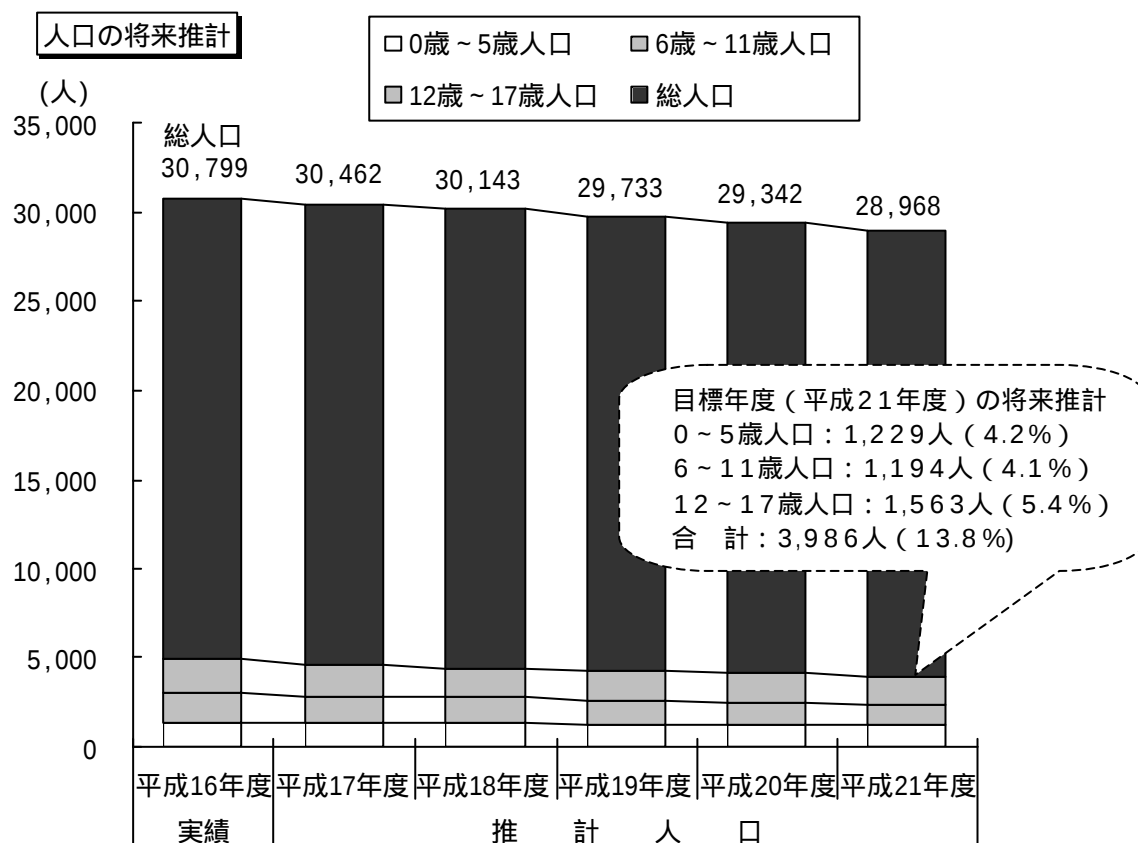
第3章 計画の方向性

1. 将来人口の推計

コーホート変化率法で将来人口推計を行うと、今後も総人口および17歳以下人口が減少していくと見込まれ、5年後の平成21（2009）年度には総人口28,968人、0歳～5歳人口は1,229人、6歳～11歳人口は1,194人、12歳～17歳人口は1,563人となる予測です。

単位：人

児童年齢		0歳～5歳合計	6歳～11歳合計	12歳～17歳合計
推計人口	平成17年度	1,340	1,521	1,737
	平成18年度	1,324	1,419	1,694
	平成19年度	1,294	1,331	1,668
	平成20年度	1,265	1,245	1,620
	平成21年度	1,229	1,194	1,563



資料：住民基本台帳および人口動態統計よりコーホート変化率法で推計

コーホート変化率法＝ある年（期間）に生まれた集団（コーホート）の一定期間における人口の変化率に着目し、その変化率が将来にわたって維持されるものと仮定して将来人口を算出する手法。

2．理念と方向性

(1) 3つの理念

本計画を策定・推進するにあたり，留意すべき理念を次の3つに定めます。

すべての子どもが健やかに成長できる環境づくり

少子化の進行により，最も影響を受けるのは子ども自身であり，子どもたちの心身ともに健やかな成長を尊重し，保障するとともに，子どもの幸せを第一とする社会の実現をめざします。

すべての保護者が喜びと楽しさを実感できる社会づくり

子育てに関する不安感や負担感を軽減し，家族をもつこと，子どもを生み育てることに夢と希望がもてる施策の充実に努めます。

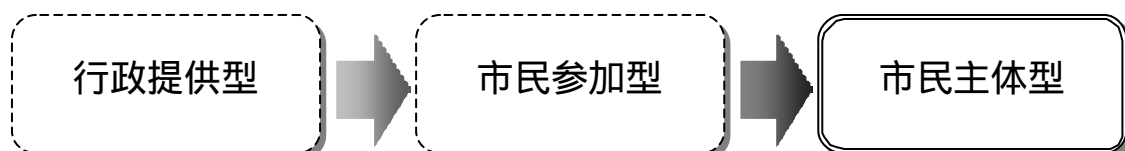
また，仕事と子育ての両立の困難さや男女の固定的な役割分担意識など，少子化の要因となっているあらゆる社会的な障害を取り除き，安心して子どもを生み育てることのできる社会の実現をめざします。

すべての人が参画し支え合う子育て環境づくり

子育て支援は，地域社会，企業，学校，行政等を含め，社会全体で取り組むべき課題です。このため，さまざまな地域の支え合い機能が希薄化する中で，地域の意識の再生を図り，地域社会全体が子育て家庭に目を向け，「地域の子どもは地域で育てる」という共通認識のもと，あらゆる人々が自分の知識と経験を生かしながら子育て支援に関わっていける環境づくりを推進します。

(2) 施策の方向性

子育て施策の方向性を，行政施策の「提供型」から「参加型」へ，そして市民による自主的な「主体型」へと展開を図ります。



3．計画の構想

本市の子育て環境について、「市民み～ていんぐ」委員によるさまざまな意見をまとめると、主に次のような課題が浮かび上がってきました。

【見えてきた課題】

- 子どもの「遊び」や「交流」「仲間」の希薄化
- 「家庭」「地域」における教育力の弱体化（親自身への教育，父親の協力不足）また，それをフォローする地域の人々の協力も不足。

このような課題と，ニーズ調査結果等をふまえ，市がめざすべき重点目標を次のように定めます。

【重点目標】

～年齢を超えて，みんなが交わる場づくり～

さらに，重点目標である「年齢を超えて，みんなが交わる場づくり」を進めることで，将来的にめざす大竹市の姿を次のように定めます。

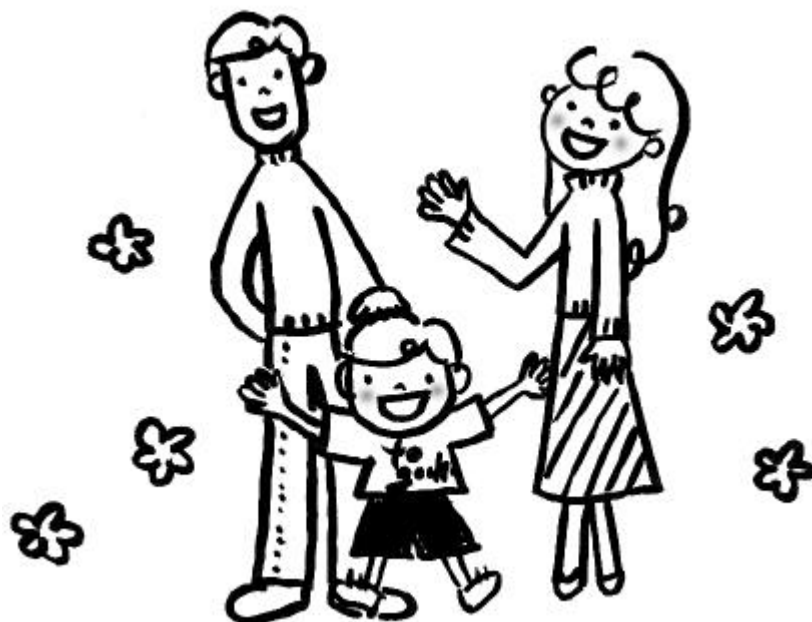


【大竹市次世代育成支援行動計画がめざす市の将来像】

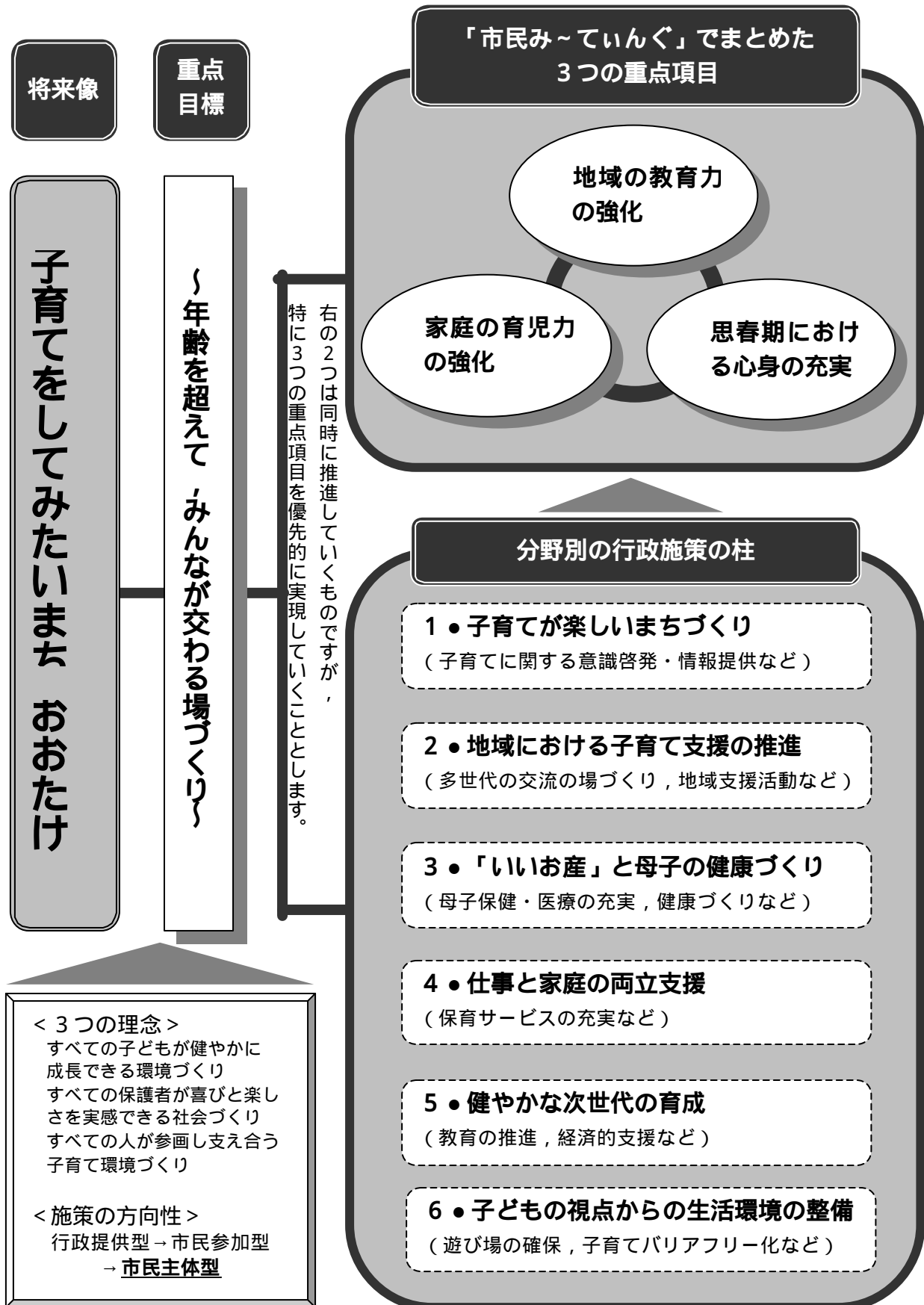
子育てをしてみたいまち おおたけ

子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、だれもが気軽に交流できる場を増やし、地域 みんなで子どもを育てていく社会を再生することで、親や子どもの孤立感や子育てに関する不安感・負担感の軽減を図ります。さらに、子育てにともなうさまざまな支援や、安心・安全な子育て環境と、子どもがのびのびと育つことのできる環境を総合的に整備していきます。

このような取り組みにより、すべての市民が子育てにともなう「喜び」や「希望」を感じることにより、今の親には「もっと子育てをしてみたい」、地域の人々には「もっと地域の子育てに関わりたい」、今の子どもたちには「将来、大竹市で子どもを生み育てたい」と思ってもらえるようなまちをめざします。



【施策の体系図】



第4章 重点項目と役割分担

「市民主体型」の次世代育成支援行動計画推進のため、「市民み～ていんぐ」の委員からの提言をもとに、重点的に行うこととそれぞれの役割分担を次のように定めました。

「地域」とは、地域住民はもちろん、学校や保育所等の教育・児童福祉施設、各種地域組織・団体、民間を含むボランティア団体・NPO法人等を含みます。

重点目標

年齢を超えて、みんなが交わる場づくり

(1) 思い切りスポーツを楽しめる公園・広場の設置

[役割分担の例]

地域	○年代を問わず楽しめる地域活動の推進（グラウンドゴルフ、ラージボール卓球、ハイキング、なわとび、ゴムとび等）
市	○広いスペースのある公園・広場の設置 ○年代を問わず楽しめるスポーツの普及（グラウンドゴルフ、ラージボール卓球、ハイキング、なわとび、ゴムとび等）

(2) 親子や地域の人々が気軽に集まれる場の増加

[役割分担の例]

家庭	○地域行事・サークル活動等の積極的な参加
地域	○地域の行事や祭りの継続→そのためには、住民主体の運営が望ましい（企画や財源において） ○公民館・コミュニティサロン・広場等既存施設の活用 ○学校の空き教室や商店街の空き店舗の活用 ○人材マップの作成（伝統文化の継承者や、遊びの指導者となる人材等を紹介） ○各種組織・団体同士の連携強化
事業者	○地域行事等の積極的な参加 ○地域住民との交流の機会促進

市	○子育て支援センターの充実・増設 ○子育てサークル等の発足・育成支援 ○世代間交流のできる場・機会の確保と，ボランティアとなる人材の育成 ○特に，高齢者の活用（シルバー人材センターを活用した登録制度の導入） ○人材マップの作成支援 ○ボランティア活用のための組織づくり
---	---

3つの重点項目

1．地域の教育力の強化

.....

（１）地域活動の継続・充実

[役割分担の例]

家庭	○地域の祭り・イベント等の積極的な参加・協力
地域	○だれもが参加できる地域の祭り・イベント等の継続・充実 ○花いっぱい運動の展開 ○子どもの体験活動の充実 （例えば子どもの野菜のつみ取り体験等は，つみ取るところだけを体験させるのではなく，種をまくところから育てるところもすべて子どもたちの手で行うことが大切） ○伝統文化をはじめ，高齢者の知恵や知識・技能を子どもたちに伝える場の増加（しめなわづくり，ひな流し，和紙づくり，鯉のぼりづくり，凧づくり等）
事業者	○地域活動への参加・地域清掃等奉仕活動の推進
市	○伝統文化や技術の伝承ができる機会の増加や，その広報に努める ○公民館等での子どもものづくり教室や体験講座の開設

(2) 子どものラジオ体操を，地域のラジオ体操へ

[役割分担の例]

地域	○ 子ども会中心となっているラジオ体操を地区のラジオ体操へと広める ○ 参加者を増やす（ラジオ体操のカードを老人クラブ等各種団体へ配布する等） ○ 各自治体役員や各地区の体育指導委員ならびに体育委員の活用
----	--

(3) 各種組織・団体活動の活発化と連携

[役割分担の例]

地域	○ 青少年育成市民会議をはじめとする地域の様々な組織・団体活動の活発化（中高生ボランティア活動の「まちづくりジュニアスタッフ A C T」等） ○ 各種組織・団体において，次世代の指導者の育成（若い人材を育てる）
市	○ ボランティア活動を行う人材の育成の支援 ○ 有償ボランティア等，新たな形のボランティアの紹介 ○ 庁内での，課の枠を超えた取り組みや連携強化

(4) あいさつ運動の展開

[役割分担の例]

地域	○ 「栄町を明るくする会」，「ハローの会」，「P T A」等によるあいさつ運動の展開 ○ 地域（隣近所）の大人たちが，意識して子どもたちに声をかける
事業者	○ 地域とともに，あいさつ運動を進める

（５）防犯・交通安全の確保

〔役割分担の例〕

地域	○ 防犯勉強会を積極的に開催する ○ 老人クラブ等で「子どもたちと一緒に下校しよう」運動の展開 ○ 登下校指導・パトロール等，地域（隣近所）の大人たちが，意識して子どもたちを見守る ○ 家の「門灯・玄関灯をつけてください」と呼びかける（チラシ等の啓発活動を含む） ○ 「こども110番の家」の増加・活用
市	○ 防犯体制の充実，交通安全教室の開催，啓発活動の充実等 ○ 「こども110番の家」の増加・活用

（６）学校との連携強化

〔役割分担の例〕

地域	○ 学校と地域との連携を深める体制づくり（学校の教職員がもっと地域の行事に参加する等） ○ 学校の行事や授業等を広く地域の人々に参加してもらえるようにする ○ 学校の空き教室や校庭等の地域への開放（地域の高齢者等の協力のもと）
市	○ 学校の空き教室や校庭等の地域への開放（地域の高齢者等の協力のもと）



２．家庭の育児力の強化

（１）男性の子育て参加促進

[役割分担の例]

家庭	○ 家庭の中で，男女が協力しながら子育てをする
地域	○ ＰＴＡの中に「おやじの会」を広げる ○ 「家庭の日」の充実（親子で参加できるイベント等の開催） ○ 男女共同参画社会に向けての意識啓発活動を進める
事業者	○ 育児休業等の各種法・制度に基づき，子育てしながら働きやすい環境を整備する
市	○ 育児休業等の各種法・制度に関する周知啓発。企業等への働きかけを行う ○ 男女共同参画社会に向けての意識啓発活動を進める ○ 男性の子育て教室等の開催 ○ 「家庭の日」の充実（親子で参加できるイベント等の開催や啓発活動等）

（２）コミュニケーションの苦手な親（保護者）へのフォロー

[役割分担の例]

家庭	○ 隣近所等で閉じこもりがちな子育て中の親子がいたら，自然に声をかけたり，温かく見守る
地域	○ 地域の人々等からの声かけ（地域活動への参加呼びかけ等） ○ 気軽に話せる場づくり
市	○ 他の地区の人々とも出会える機会の創出

（３）子育てに関する相談場所の拡大

[役割分担の例]

市	○ 安心して子どもを連れて行ける，より広い相談スペースの確保（子育て支援センターの拡大等） ○ 子育て支援に関する講座やサークル活動の充実 ○ 家庭児童相談室の充実→広い場所の確保と相談しやすい環境づくり
---	--

(4) 食育の推進

[役割分担の例]

家庭	○ 食事はできるだけ手作りで。忙しい保護者や料理の苦手な保護者は、おやつにおにぎり等、まずは簡単なところから始める ○ 食べ物を大切にする習慣をつける ○ できるだけ子どもと一緒に、楽しく食事をする
地域	○ 親子料理教室の開催 ○ 食生活推進員の活用（食育に関する啓発・PR） ○ 食べ物を大切にする習慣をつける ○ 保育所・幼稚園・小・中学校，高等学校における食育の推進
市	○ 子どもたちがさまざまな場で食を学び，関心をもてる機会の創出 ○ 食生活推進員の活用（食育に関する啓発・PR） ○ 食べ物を大切にする習慣をつけるための啓発活動を進める

3 . 思春期における心身の充実

.....

(1) 中・高校生の居場所づくり

[役割分担の例]

家庭	○ 子どもが自分の好きなことを見つけ，夢中になれる環境づくりや居場所づくりに努める
地域	○ 地域のさまざまな行事等に，地域の中・高校生が積極的に参加できるように推進（地域の大人たちの呼びかけも必要） ○ 子どもが自分の役割や存在意義を感じられるような取り組みを進める
事業者	○ 職場体験等への協力・情報提供
市	○ 子どもの居場所となる「地域子ども教室」を開催する

(2) スポーツ・文化活動を楽しめる場づくり

[役割分担の例]

地域	○ スポーツ少年団をはじめとする各種スポーツ団体や文化団体を支援し、地域ぐるみの取り組みを支援する ○ 公園の有効活用と維持管理 → 市内主要公園をマップで紹介した「こうえんたんけん」(大竹市民生委員・児童委員協議会、大竹市社会福祉協議会作成)等を活用し、公園の利用促進や、環境美化活動の促進(草むしり等) < 音楽(バンド活動等)を楽しめる場づくりとして > ○ 学校を含め、地域での練習場所の確保 ○ 若者の音楽活動等を発表できる機会の創出(イベントの企画や参加)
市	○ 「地域子ども教室」を開催する(再掲) ○ 若者の好きなスポーツが気軽にできる場を増やす ○ 福祉事務所や教育委員会等で子どもに関わる事業を複数行っているが、行政内部での連携を密にしながら事業の整理を行い、効果的に進める ○ 市の管理地の中で空き地が多くあるため、市民への貸し出しを行う(バドミントン等、簡単なスポーツができる場所として) ○ 公園の有効活用 ○ 子ども情報誌を作成し、地域の団体活動を紹介する < 音楽(バンド活動等)を楽しめる場づくりとして > ○ 屋内練習場の確保 ○ 若者の音楽活動等を発表できる場所や機会(イベント等)の創出 → 発表等の場所として、ゆめタウン沖埋立地の活用を検討

(3) 地域で勉強を教える体制づくり

[役割分担の例]

地域	○ 地域で勉強会の開催（まずは夏休み等，長期休暇中から） → その人材としては，地域の中・高校生・大学生を中心に， 大きい子どもが小さい子どもの勉強（宿題等）を教える形 が理想。それを親や地域の大人たちが輪番制で子どもたち 全体の面倒をみる（子ども会，PTAが主体的に行うこと が理想）
----	--

(4) 思春期の悩みに対応できるカウンセリングの場づくり

カウンセリング＝心の悩みをもつ人の相談相手になって悩みの解消をはかる
こと。

[役割分担の例]

市	○ こども相談室の充実→広い場所の確保と相談しやすい環境 づくり
---	-------------------------------------



第5章 数値目標一覧

特定14事業に係る数値目標一覧（再掲）

事業名	現状 (平成16年度)	目標 (平成21年度)
通常保育	定員 720人	定員 660人
延長保育事業	定員 30人 設置 3か所	定員 59人 設置 5か所
休日保育事業	定員 0人 設置 0か所	定員 26人 設置 1か所
放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	定員 170人 設置 3か所	現状維持
乳幼児健康支援一時預かり事業 (病後時保育・施設型)	定員 0人 設置 0か所	定員 6人 設置 1か所
一時保育事業	定員 6人 設置 3か所	定員 15人 設置 5か所
地域子育て支援センター事業 (つどいの広場)	設置 2か所	設置 3か所

大竹市独自の数値目標一覧（再掲）

事業名	内 容	現 状 (平成16年度)	目 標 (平成21年度)
乳幼児健診	受診率	乳児 85.5 % 1歳 6か月児 89.7 % 3歳児 86.5 % (H15度)	乳児 87 % 1歳 6か月児 91.2 % 3歳児 88 %
	満足度	78.8 % (H15度)	80 %
	う歯のない者の割合	1歳 6か月児健診 97.5 % 3歳児健診 68.4 % (H15度)	1歳 6か月児健診 98 % 3歳児健診 71.8 %
エプロンシアター	開催回数	7回 (H15度)	9回
	開催場所	公立保育所 (H15度)	全保育所・幼稚園・児童館
郷土料理調理実習	参加校数	1校 (H15度)	3校
地域における性に関する正しい知識の普及	開催回数	1回	1回
	参加者数	600人	700人
学校評議員の設置	設置率	100 %	100 %
家庭教育学習・講座	開催回数	3回	5回

事業名	内 容	現 状 (平成16年度)	目 標 (平成21年度)
「こども110番の家」等 緊急避難場所の設置	設置件数	374件	374件
交通安全教室の開催	開催回数	7回	12回
	参加者数	1,723人	2,300人
子どもを対象とした防犯 指導の実施，防犯機器 の貸与	開催回数	12回	12回
放課後児童クラブにお ける障害児の受け入れ 推進	障害児対応クラブ数	3か所	3か所
訪問指導	第1子および 希望者に対する 訪問件数等	訪問件数 94件 第1子訪問実施率 60.7 % (H15度)	訪問件数 114件 第1子訪問実施率 90%
パパママスクールの 開催	参加率	ママ 第1子の39.1 % パパ 第1子の25.2 % (H15度)	ママ 第1子の50 % パパ 第1子の30 %
離乳食教室の開催	実施回数	0回 (H15度)	4回
	参加者数	0人 (H15度)	23人
予防接種	接種率	三種混合 1期初回 79.5 % 三種混合 1期追加 73.2 % ジフテリア2期 51.6 % 麻疹 77.5 % 風疹 78.9 % 日本脳炎 65.7 % ポリオ (前期) 66.2 % ポリオ (後期) 70.5 % BCG 84.5 % (H15度)	三種混合 1期初回 83.5 % 三種混合 1期追加 76.9 % ジフテリア2期 54.2 % 麻疹 81.4 % 風疹 82.8 % 日本脳炎 69 % ポリオ (前期) 69.5 % ポリオ (後期) 74 % BCG 90 %
エジンバラ式産後うつ病 スクリーニング票の活用	該当者率	過度の不安やストレス を感じる者 15.2 % 相談相手や育児協力 者の不在 0.05 % 育てるのが難しいと感 じる者 10.2 % (H15度)	過度の不安やストレス を感じる者 13.7 % 相談相手や育児協力 者の不在 0.03 % 育てるのが難しいと感 じる者 9.2 %
防煙教育	参加学校数	1校 (H15度)	4校
タッチケア講習会	実施回数	7回 (H15度)	8回
	参加組数	66組 (H15度)	80組
不審者対策訓練	開催回数	5回	12回

エジンバラ式産後うつ病スクリーニング票 = 産後に見られる気分の変化としての産後うつ病・
育児不安などのスクリーニング票。

タッチケア = 「ふれあい」を通して親子の結びつきを深める，赤ちゃんへのマッサージ。

大竹市次世代育成支援行動計画 - 概要版 -

s

発行年月 / 平成17 (2005) 年 4 月

発 行 / 大竹市

〒739-0692

広島県大竹市小方一丁目11番 1 号

TEL 0827-59-2111 FAX 0827-57-7130

編 集 / こども課

策定協力 / (株)ジャパンインターナショナル総合研究所 中国支社